100年先まで繋がる暮らしを！

山田農場よりメッセージが届いています。

宮下　様.

こんにちは。　ごぶさたしております。
農場の直売所で　まほろばさんの商品（主に調味料）を販売させて頂いていますが、チーズでなくしょうゆだけを買いに来られる方もいて、よろず屋のようになっております（笑）。昨秋より、酒類販売免許も取り、自然派ワインもお店に並び、とってもにぎやかな売店になっています。
昨年末に牛を手放し、今春から山羊とヒツジの混乳のチーズ「ガロのチーズ」（ガロとは、この辺の土地の名）でリニューアルしています。3ヘクタの放牧地に4月～11月まで放牧し、それ以外に与えるのは、地元の米ぬか、大豆、玄米、乾草だけです。（時季によっては野菜から）
3人兄弟と共に楽しくやっております。ぜひ一度遊びにいらして下さいね。
さて、送りおくれてしまった本ですが、大間原発反対に20年以上関わってきた野村保子さんが書いたものです。野村さんは以前にも「小出裕章さんに聞く放射能のおはなし」という小・中学生向きの本をルコンハウスから出版しています。私も3.11後からは積極的に関わり始め、野村さんと「大間とわたしたち・未来につながる会」を作って2人で活動もしています。ただ、子育てと家業がありますので、ここでできることを発信し、できることをやっていこうと思っているところです。3.11が起きこり、「原発」というものがどういうものなのかつきつけられ、でもそれでも止まらない原発推進にしょぼくれる日々…。大間も、函館を目前にしいし、まだできてもいない原発の安全審査を通そうとする、意味不明な企業と国の動き…。この冬に読んだ3冊の本で納得がいきました。
・戦後史の正体（孫崎享著）
・日米地位協定入門（前田哲男著）
・日本はなぜ、「基地」と「原発」を止められないのか。（矢部宏治著）
ご存知かもしれませんが、「目からウロコ」と言うより、「やっぱり…」という内容でした。でも、未来を考える時、歴史と真実を知ることは絶対に必要だと思うのです。そこを踏まえなければ、前には進めない。私に今できることは知って伝え、一緒に考えることだけしかないかなと思っています。
野村さんの本を読んで、つづけようと思いました。
勝手に送りおくれて申し訳ありませんが、どうかお読みいただき、一緒に考えて下されば…と思っております。
日本と原発の未来、しかも近い未来を変えてしまうかもしれない大間原発、この原発がいかに「危険」で「おかしい」かを知って下さい。どうかよろしくお願い致します。
P.S.「ガロのチーズ」ですが、3月は飲食店さん向け、10日がうちのスタンダードです。今は放牧前ですので、まだフラットな味。放牧すると、ナッツのような香ばしい味わいになります。どうぞお楽しみいただければ嬉しいです。

山田あゆみ.

まほろばだより
No.4098 15-73 6/5

「ガロのチーズ」についての訂正

5月のまほろばだよりに掲載いたしました山田農場（道南・七飯町）「ガロのチーズ」の情報について、訂正がございます。

①チーズの内容について

（誤）牛・山羊ミックス　（正）山羊・羊ミックス

②飼料について

一部、現在使用していない飼料が含まれておりました。
現在は、「春から秋は、山の放牧草と、近所で刈ってきた青草、米ぬか（七飯町）、玄米（道産）、大豆（道産）、サンゴ粉末（沖縄）などを与えます。冬は、青草の代わりに乾牧草（森町）を与え、輸入穀物は一切使いません。」が、正しい情報です。
これからも、地元の物を食べて育った山羊や羊たちから得られるミルクで作った、地域に根ざしたチーズの味をお楽しみ下さい。

（まほろば編集部）

季節限定　4月頃～10月頃

ガロのチーズ　Price:770yen（税込）

山田農場さんのおたよりです。

「山羊・羊・牛たちと共にある山小屋暮らしとチーズ作りの日々」(10)
～山田農場チーズ工房　山田あゆみ～

写真1　レッドオランジでジュースをつくります
写真2　山桑の木に登って桑の実採り
写真3　放牧地での出産

「山羊・羊・牛たちと共にある山小屋暮らしとチーズ作りの日々」(9)
～山田農場チーズ工房　山田あゆみ～

写真1　福島の子どもたちに贈る野菜
写真2　大間原発現地反対集会デモに参加
写真3　炉心から半径3キロ以内に大間の町の全てが入る
写真4　青い空と海……子どもたちへ、この光景をきちんと受け繋いでいきたい

●野村　保子
「大間原発と日本の未来」
1冊…¥**2,052**

●プルトニウムを消費するために下北半島の突端に建設されている世界初のフルMOX原発「大間原発」。その反対運動に20年以上関わってきた著者からの、日本のいまと未来を考えるための現場報告です。【ガロのチーズ】山田農場の山田あゆみさんも応援団として登場します。

野村保子さんの著書

「山羊・羊・牛たちと共にある山小屋暮らしとチーズ作りの日々」（9）

～山田農場チーズ工房　山田あゆみ～

2013年の記事です。

9. 100年先まで繋がる暮らし

昔の人は子や孫を思いながら，採りすぎないように山菜を山からもらい，山に木を植え，100年先までも考えながら田畑を作ってきました。それは命を前提とした働きであり，長い時間をかけて今の私たちに繋がったと思うのです。私たちのチーズ作りも，この山小屋での不便で豊かな暮らしも，100年先まで繋げられたら……そう思っていた時に起こったのが，東北関東大震災と福島の原発事故でした。私たちの暮らしは根底から揺るがされ，今までの価値観をすべて見直す時が来たのだと思いました。そして，今，私たちにできること，今からでも私たちがするべきことをずっと考えてきました。それを少しここに書かせていただくことにします。

①福島の子どもたちに野菜を贈る会

2011年夏，福島から大沼に保養に来た親子と出会いました。そのお母さん方から，避難できない諸事情，その中で福島に残り，子育てする上での不安，食べ物のこと，色んな話を聞きました。その少し前に，友人が話していた，「福島の子どもたちに，北海道の安全で美味しい野菜を贈りたい」という言葉が頭に浮かび，話をしたところ，「ぜひ欲しい」と即答でした。贈る野菜は主に，旬には山のように頂く野菜や，農家さんからの規格外・ハネ野菜などです。子育てはお互い様だと思うのです。色んな事情があって当たり前，困った時はお互い様。そんな気持ちで，出会った家族と幼稚園などに贈っています。農村に住む私たちが，少しでも福島に寄り添いたいと思ったとき，こんな形なら，今私たちにでもできるのだと気付かせてくれた福島のお母さんと友人に感謝しつつ，今年は山田農場の畑からもジャガイモを贈ります。この会が大きくなることよりも，こんな会が点々とあちこちにでき，子どもたちに野菜を贈る輪が広がっていったらいいなと思っています。

②大間原発のこと

青森県下北半島の先端に，今建設中の原発があるのを知っていますか？マグロで有名な大間町にある大間原発です。震災の影響で工事がストップしていましたが，国と電源開発（Jパワー）は，昨年10月から工事を再開してしまいました。大間原発は，フルMOX燃料を商業炉で燃やす，世界初，もしかしたら世界一危険になると言われている原発です。福島と同等の事故が起きた場合，大間の対岸約20キロにある函館市と，道南一帯の受ける被害は計り知れません。道南地域は一丸となって反対していますが，その声は届かず，立地する地元では，ほとんど反対の声は上がっていません。でも，大間の人たちが，どういう経緯で土地を明け渡し，今どういう気持ちで建設中のクレーンを見続けているのか……その気持ちに寄り添わずして反対はできないと思っています。今，私たちにできる事は，国や電源開発に立ち向かうのではなく，大間の人たちの歴史や暮らしを理解し，日本の人たちみんなで共有し，きちんと真実と向き合って「NO！」と言い続ける事だと思うのです。大間に「土地と海があれば生きていける。大金なんかいらね」と土地を守った女性が居ました。その人は熊谷あさ子さんといいます。そこには「あさこはうす」という小屋が建ち，あさ子さん亡き今は，娘の小笠原厚子さんが守っています。あさこはうすは，原子炉の炉心が設置される予定地から100mの所にありましたが，あさ子さんは最後まで土地を売らなかったので，電源開発は炉心を200m横にずらしました（炉心からたった300m先に民家が存在するのです）。そのおかげで工期が2年延び，2012年稼働予定だったのが，2014年にずれ込み，震災後の現在は未定となっています。一人の力でもできることはある……そんな勇気をあさ子さんからもらいました。とにかく，これ以上新しく原発を作るのは止めましょう！それよりも，山に木を　植え，海や川を綺麗にし，みんなで小さな畑に小さな種を蒔きましょう。子どもたちが，当たり前のように山や海や川で遊び，空から降る雨を恵みと喜び，沢の湧水をごくごくと飲み，畑で採れたトマトをその場でほおばる……そんな光景を子どもたちへきちんと受け繋いでいきたい。それが私たち大人の役割ではないかと思うのです。

③100年先まで繋がる暮らしを続けていこう！

私たちは始めからこういう暮らしをしようと思っていたわけではありません。農場，家，チーズ工房と，何もない所から作っていくうちに，作ることの楽しさを知り，小さい車輪を回すコツを掴んでいったのです。小さい車輪を回すには，小さい力でよく，時々休み休みでも少しずつ進み，周りの景色も程よく見え，道草も楽しいのです。しかし，これが大きい車輪だと，フルアクセルで回し続けなければなりません。燃料（お金）もかかり，止まると後が大変です。景色もよく見る余裕もなく，何が足元にあってもわかりません。小さいことでいいことは沢山あります。それが不便なのか，面白いかは捉え方次第でいか様にもなります。「足るを知る」ことは幸せです。私たちはそんな風にここで暮らし続けたいといつも思い，今日も山小屋暮らしをしています。人に自慢できる小屋ではありませんが，不便で豊かなこんな暮らし，味わってみませんか？

参考サイト

http://ooma-dounan.org/?page_id=16
（海でつながる大間と函館）
http://ooma.exblog.jp/（大間原発止める道）
http://yamadanoujou.blog.fc2.com/
（福島の子どもたちに野菜を贈る会）